

第三次国立市子ども総合計画重点取組みの実施評価

重点的取組み名	所管課	総合評価
課題を抱える子ども・若者支援の推進	子育て支援課 福祉総務課 児童青少年課	C

	取り組み内容	評価
1.	当事者及びその家族に対する支援スキル向上のための研修を実施	B
2.	ペアレントトレーニングの実施	D
3.	不登校の児童が、学校へ復学する以外に、自分らしく過ごすことのできる居場所の設置、誘導	B
4.	子どもの貧困に係る目標等の必要項目についての検討	C

令和 6 年度までの実績または取組の現状

ひきこもり支援関連(多様な学びを伸ばす環境整備)

ペアレントトレーニングについては未実施したが、ひきこもりステーション事業を実施し、夕方からの居場所、ひきこもり UX 女子会への参画を行った。夕方からの居場所は少人数ながら継続しており、当事者にとっての貴重な場となっている。ひきこもり UX 女子会は広域連携で実施しているところ、毎回50名近くの参加者が来所され、ひきこもり者にとって、共感、自己表現、情報収集の出来る希少な場となっている。

た、公共施設における児童館等の居場所を引き続き確保するとともに、行政のみならず地域全体で多様な学びを伸ばすことができる環境を整備していくため、地域で活動している団体等のうち、学校に行かない・行けない状況にある児童・生徒を受け入れ、且つ教科教育に限らない多様な学びを伸ばす環境を提供できる団体に対して補助金を支出した。

子どもの貧困支援関連

生活困窮者世帯の児童を対象に含めた食糧支援を、市内の地域活動団体等と協力して行うため、フードパントリー連絡会でネットワークを形成し、食料の必要に応じた提供を団体間で調整の上、食料の提供や子ども食堂の案内を実施することが出来た。

また、新型コロナウイルスの影響による失業や収入の減少を踏まえて、ひとり親世帯の生活を支援するため、令和 3 年 7 月から 9 月までの期間に、市内の飲食店で利用できる 5,000 円分のごはんチケットを無償配布する「くにたちひとこえプロジェクト」を国立市社会福祉協議会と連携して実施した。

その後、新型コロナウイルスの影響の長期化や、ごはんチケットにニーズがあったことから、令和 3 年 12 月から令和 4 年 3 月までの期間に、国立市社会福祉協議会と連携して「第 2 回くにたちひとこえプロジェクト」

を実施した。第 2 回目では、ひとり親世帯及び住民税均等割非課税の子育て世帯その他支援が特に必要な子育て世帯を対象にごはんチケットを無償配布し、また、国立市子ども協議会における事業設計の基礎資料とするために、ごはんチケットの申込時に WEB アンケートを実施した。

課題及び改善点

「くにたちひとこえプロジェクト」で行ったアンケート結果(概ね 280 人程度)では、「子ども食堂」について、一部の方より「スティグマを感じて利用しづらい」「時間が合わず利用できない」という声があった。このため、「支援」を感じさせない、いつでも気軽に利用できる仕組みづくりをすることが改善点である。

今後の方向性

継続実施

理由

子ども支援、ひきこもり支援を行う上で、地域団体によるセーフティネットは確実に存在しており、行政が地域ネットワークに関わり続け、地域共生社会の実現に向けて前進する。

また、子どもの貧困対策は一朝一夕に解決できる問題ではなく、昨今の物価高騰等社会情勢からみても自然解消されるものでもない。子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図る必要がある。